

平成25年度
京都府公立大学法人決算

平成26年6月

京都府公立大学法人

平成 25 年度決算の概要

平成 26 年 6 月
京都府公立大学法人

1 はじめに

本法人は、平成 20 年 4 月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今回、第 1 期中期計画の最終年、第 6 期目の決算をとりまとめました。

この財務諸表は、企業会計を原則としつつ、公立大学法人特有の会計処理を加味した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成したものであり、本法人の財政状況や運営状況を示したものです。

2 財務諸表の概要について

(1) 貸借対照表（別紙 1 参照）

貸借対照表は、貸借対照日（3 月 31 日）におけるすべての資産、負債及び資本を記載した本法人の財政状態を示す書類です。

① 資産の部 < 504 億 4 千 6 百万円（対前期 + 63 億 6 千 2 百万円）>

平成 25 年度から北部医療センターが京都府立医科大学附属病院化されたことに伴い、京都府から建物を出資いただいたことにより 16 億 2 千百万円増加したことや、本院の E 病棟で空調等設備を整備したこと、さらには、電子カルテシステム更新に伴う器機更新やラルス及び C T 装置等診療機器の購入に伴い固定資産が増加しました。土地、建物、工具器具備品等の固定資産合計は 366 億 8 千百万円現金及び預金や未収金等の流動資産合計は 137 億 6 千 4 百万円となっています。

② 負債の部 < 254 億円（対前期 + 66 億 8 百万円）>

北部医療センターが附属病院化されたことに伴う資産見返負債の増や附属病院における電子カルテシステムの更新に伴う器機リース債務や電子カルテシステム更新及び診療機器購入等に伴う長期借入金の増等により、固定負債が増加しました。

資産見返負債や京都府からの長期借入金等の固定負債合計は 149 億 7 千 8 百万円、寄附金債務や未払金等の流動負債合計は 104 億 2 千百万円となっています。

③ 純資産の部 < 250 億 4 千 5 百万円（対前期 △ 2 億 4 千 7 百万円）>

北部医療センターが附属病院化されたことにより、京都府から建物等が出資されたことにより資本金が 16 億 2 千百万円増加し、当期末処分利益を含む利益剰余金は 28 億 3 千 4 百万円となっています。

(2) 損益計算書（別紙 2 参照）

損益計算書は、一会计期間（4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの一年間）における

活動に伴う費用とこれに対応する収益を記載した本法人の目的別コストと収益構造を示す書類です。

① 経常費用<425億3千4百万円（対前期+71億9千7百万円）>

主な内訳は、教育経費5億5千9百万円、研究経費14億9千3百万円、診療経費171億8千4百万円、人件費210億4千8百万円等となっています。

増加の主な原因としては、北部医療センターが附属病院化されたことに伴い診療経費が30億1千9百万円、人件費が31億2千9百万円、合計で62億3千4百万円の増や、附属病院における医薬材料等診療経費7億4千5百万円が増加しました。

② 経常収益<425億1千4百万円（対前期+71億6千万円）>

主な内訳は、府からの運営費交付金収益66億8千8百万円、授業料等学生納付金収益19億9千2百万円、附属病院収益は293億6千3百万円等となっています。

増加の主な原因としては、北部医療センターが附属病院化されたことにより診療収入が53億7千8百万円増えたことや、附属病院の診療収益が10億2千9百万円と增收となったことの他、資産見返負債戻入が3億5千百万円の増、寄附金等の外部資金に係る収益等も増加しています。

③ 経常損益<△1千9百万円（対前期△3千6百万円）>

経常収益から経常費用を差し引いた経常損益は1千9百万円の赤字となりました。

また、本期は、北部医療センターの附属病院化に伴い債権受贈益1億4千3百万円など臨時利益が1億7千万円発生するとともに、賞与引当金1億7千3百万円など臨時損失が2億3千5百万円発生し、これらを合わせた当期純利益は8千4百万円の赤字となりました。

さらに、過去の利益であります目的積立金を活用し、教育、研究及び診療の充実を図ったことから、目的積立金取崩額が1億2千8百万円発生し、当期総利益としては、4千3百万円の黒字となりました。

(3) その他の主要諸表

① キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間における業務活動、投資活動及び財務活動の三つの区分に分けて資金収支の状況を示す書類です。

② 利益の処分に関する書類

利益の処分に関する書類は、損益計算上の利益の処分を明らかにするための書類です。

③ 行政サービス実施コスト計算書

行政サービス実施コスト計算書は、損益計算書上の費用に加え、法人運営上コストとなっているものを計上することにより、住民等が負担している全コストを明らかにするための書類です。

④ その他

上記の他に、貸借対照表や損益計算書等の内容を補足するものとして附属明細書などがあります。

3 おわりに

法人化後、第1期中期計画期間の6か年が経過し、理事長のリーダーシップの下、全教職員が経営を意識しながら教育・研究・診療等の業務に当たってきていますが、収益の7割を診療収益が占めることからも、とりわけ附属病院では、全員が経営改善を共通の目的として日々努力を重ねており、その成果が具体的に現れてきています。

今後とも、更なる経営改善に向けた取り組みを進め、府立の大学として府民の皆様のご期待のこたえるよう教育・研究・診療の充実・発展に努めていくことが望されます。

平成25年度(第6期)決算状況

貸借対照表(要約)

(単位:千円)

資産の部	固定資産	土地	57,745	負債の部	資産見返負債	5,202,260
		建物	34,745,734		長期借入金	8,660,310
		工具器具備品	13,349,654		長期リース債務、資産除却費	1,116,296
		図書	1,580,686		固定負債計	14,978,868
		その他	605,346		受託研究費等債務	432,514
		減価償却費	△ 16,780,045		寄附金債務	2,038,882
		建設仮勘定	-		未払金	6,592,736
		有形固定資産計	33,559,119		賞与引当金	509,946
		無形固定資産等計	3,122,662		その他	847,232
	流動資産	固定資産計	36,681,783		流動負債計	10,421,316
		現金及び預金	6,439,670		負債合計	25,400,184
		未収学生納付金収入	3,532		資本金	31,010,025
		未収附属病院収入	5,565,357		資本剰余金	757,723
		その他未収入金	1,202,163		損益外減価償却費等	△ 9,556,020
		医薬品及び材料費	508,986		利益剰余金	2,834,189
		その他	44,605		純資産合計	25,045,917
		流動資産計	13,764,318		負債純資産合計	50,446,102
		資産合計	50,446,102			

注:数値については単位未満切捨てにより作成しているため、合計値が一致しない場合があります。

資産見返負債(貸借対照表)と資産見返負債戻入(損益計算書)について

地方独立行政法人における会計基準では、運営費交付金や寄附金などを財源として資産を取得する場合に、財源をいったん「資産見返負債」に振り替え、固定資産の減価償却に応じて「資産見返負債」を「資産見返負債戻入」として収益に計上する会計処理をすることになっています。これによって費用・収益を均衡させることになります。

特定資産の取扱いについて

設立時に府から現物出資を受けている有形固定資産については、収益を獲得することを目的としていないものとして、「特定資産」としての指定を受けており、その償却資産については減価償却費を計上せず、「損益外減価償却費」を資本剰余金から差し引く会計処理をすることになっています。

損益計算書(要約)

(単位:千円)

経常費用	教育経費	559,872	経常収益	運営費交付金収益	6,688,777
	研究経費	1,493,363		授業料収益	1,716,417
	診療経費	17,184,207		入学会収益	222,473
	教育研究支援経費	251,768		検定料収益	53,981
	受託研究費等	856,839		附属病院収益	29,363,429
	受託事業費等	27,550		受託研究費等収益等	1,072,283
	人件費	21,048,892		寄附金収益	1,042,029
	業務費合計	41,422,495		補助金等収益	563,342
	一般管理費	1,065,873		資産見返負債戻入	1,059,935
	財務費用	46,172		雑益等	731,937
経常費用合計		42,534,540	経常収益合計		42,514,609
臨時損失			経常利益		
			△ 19,931		
当期純利益			臨時利益		
			170,423		
当期総利益			目的積立金取崩額		
〔参考〕			128,530		
償却前当期総利益					
1,130,059					

